

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770801633		
法人名	隆生福祉会		
事業所名	グループホームゆめ長居公園		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市東住吉区鷹合3-1-33		
自己評価作成日	令和5年4月6日	評価結果市町村受理日	令和5年6月1日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2770801633-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和5年5月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

感染症対策を十分に取っながら、入居者様とご家族様、地域との関係の再構築を目指して、面会や外出の機会を積極的に作っている。また、コロナ感染症によって分断されたフロア間の交流を進めている。さらに昨年、コロナ感染症発生での経験を活かし、今まで以上に「個別ケア」の実現に向けて力を注いでいる。隔離生活を余儀なくされたことによって知る事のできた入居者様の生活リズム・嗜好について、職員一人一人が常時アセスメントを行い、「その人らしい生活の継続」をサポートすることに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特養や地域包括支援センター、保育所等を運営し、地域に貢献している社会福祉法人が運営している2ユニットのグループホームです。グループホームは2・3階にあり、1階にはデイサービスセンターが併設されています。長居公園が目前にあり、リビングの大きな窓一面から、緑いっぱいの景色を眺めることができ、四季折々の自然を感じるができます。「利用者・家族・地域・職員・法人の笑顔」の法人理念で、利用者の笑顔を中心とした支援を実践しています。コロナ禍で何かと制限のある中、利用者の豊かな生活の中には職員の様々な工夫が見られます。長いコロナ禍の中で『『個別ケアの原点回帰』を学んだ』という所長の思いは現場に浸透し一丸となり取り組んでいます。主体性を発揮して利用者の暮らしを支える職員の頑張りを上司が承認する職場環境は、職員のモチベーションを高めています。また、職員は介護福祉士等の有資格者が多く、認知症に関する質の高いケアで利用者の毎日を支えています。リビングから聞こえてくる会話や笑い声はいつも利用者中心で、明るくほのぼのとした雰囲気グループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念5つの笑顔は、事務所、職員室に掲示し、浸透に努めている。また、法人理念を基にゆめ長居公園独自のケア理念を立て、職員室に掲示している。	「ご利用者の・ご家族様の・地域の・職員の・法人の笑顔」の「五つの笑顔」を法人理念として掲げ、職員は理念を理解し実践しています。長いコロナ禍の中で「個別ケアの原点復帰」を学び、「ゆめ長居公園は、どんなときでも、その人らしく過ごせる、安心できる場所を目指します」をホームのケア理念として掲げました。	新しく掲げられたケア理念の実践が、さらなる個別ケアの充実に繋がることが期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症の影響により、地域行事への参加は見合わせていたが、2023年度より地域行事再開の見込みがあり、感染状況をみながら今後は参加していく。	理念のひとつに「地域の笑顔」を掲げ、地域との交流も積極的に行ってきました。コロナ禍の間は中止していましたが、昨年10月には区民フェスティバルに参加することができました。近所の「町の電気屋さん」には、事業所紹介の資料を置いてもらい、介護相談等に繋がっています。東住吉警察署員が巡回の途中に立ち寄り、特殊詐欺の防犯の話をしてくれる等、地域との普段の関わりが戻りつつあります。コロナが落ち着いたら、地域の子ども達もいっぱい訪れるホームにしたいと所長は語っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ「ゆめカフェすまいる」が開催された際には、相談支援を中心に行う予定となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症の影響により、書面開催で継続している。2023年6月より施設での開催を再開予定。ご利用者様の様子、活動報告等しながら、頂いた意見を施設運営に反映させている。	コロナ禍のため書面開催で行っていましたが、2023年6月よりホームでの再開を予定しています。毎回、ホームの運営状況を詳しく報告し、各委員からは意見や要望が送られます。寄せられた意見や改善点は会議録として委員に報告、書面開催の間も双方向のやりとりを続けてきました。会議は、ホームからの報告だけではなく、「自分たちの考えや支援方法が一般的にどうなのか、間違いないか」等も確認する機会ととらえ、サービスの向上に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の職員に運営推進会議に参加をして頂き、施設の実情や取り組みを報告する中で、アドバイスをいただいている。	分からないことや困ったことがあれば、区の担当者に相談できる関係です。コロナ感染に関する相談も積極的におこなってきました。大阪市老人施設連盟のグループホーム委員会では、連携や情報交換を行っています。委員会から京都の施設見学に行きました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会より、高齢者の権利擁護について施設内研修を開催している。また、毎月のフロア会議で身体拘束について話し合う時間を設け、職員自身の振り返り・助言し合う事で身体拘束・虐待防止に努めている。	「身体拘束ゼロ宣言」を行い、ポスターを掲示しています。身体拘束に関する研修を実施し、職員で人権を守るケアの確認を行っています。また、身体拘束廃止委員会を毎月開催し、身体拘束防止に取り組んでいます。「身体拘束・高齢者虐待研修により、利用者に対する『思いやり』の気持ちが高まった。どうやって深く浸透させるかが課題」と捉え、取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待のポスターのリーフレットを配布・掲示している。また、身体拘束・虐待防止委員会身体拘束・虐待防止委員会より、施設内で研修を実施し、高齢者の虐待防止への意識を高めるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の外部研修に参加し、学ぶ機会を作っている。現在、各フロアで1名ずつ成年後見制度を利用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書をもって、十分に説明を行っている。説明中に、不明点がないかをこまめに確認している。契約前に施設見学も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と良好な関係を築くことが出来るように、来所時や電話連絡、メール、ライン等でご意見を言える環境ができています。また、運営推進会議にご家族様も参加していただき、ご意見を聞かせていただいている。	コロナ禍の間は、ホームのタブレットを使用して、LINE面会などを行いました。LINEを利用することで、海外の家族と話ができた利用者もいます。現在は予約や時間制限等の条件付きで、対面での面会を実施しています。ホームでの暮らしがわかる写真入りの「グループホームゆめ長居公園たより」を毎月発行し家族に送っています。またブログでも利用者の様子や表情を発信しています。家族に、より安心してもらえるよう、写真を撮るときの注意点も確認し合いました。職員が撮影した写真は選ぶのが大変なぐらい豊富で、掲載された写真は撮影用の笑顔ではなく、利用者の自然な笑顔にあふれています。コロナ禍の大変な時も、職員が笑顔で接してくれると、家族から感謝と激励が寄せられています。 ※LINE=インターネットを利用したコミュニケーションアプリ	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を開催し、作成した議事録を必ず管理者が目を通すようにしている。(情勢により書面開催)また、個別面談を年2回開催し、様々な意見を聞く機会を設けている。	毎月、フロア会議・全体会議を実施し、意見を出し合っています。利用者一人ひとりのカンファレンスも行っています。利用者の担当者が決まっており、職員は「私の担当の利用者のことは、私が一番知っている」と言えるほどです。主体性を発揮し、利用者の暮らしを支える職員の頑張りを、上司が承認する職場環境は、職員のモチベーションを高めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護技術を評価した法人独自の認定システムの構築を行い、認定者は給与アップに繋がっている。また、資格取得のバックアップ等も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTシステムをベースに、新人職員への指導を行っている。また、グループホームのケアに関わる研修に参加できるよう、個々の能力を把握した上で、研修への参加を促すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH委員会やGH・小規模多機能連絡会、ケアマネ連絡会など、定期的に関われる会議に管理者や職員が参加し、同業者とのネットワークを強固にしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様には、前担当ケアマネジャーやご家族様から情報を聞き取り、できるだけ安心した日々を過ごす事が出来るよう支援している。職員間での情報共有を密に行い、ニーズの把握や心理的ケアにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にキーパーソン等に現在の不安や将来の不安を聴き出している。困りごとや悩み事が出た時点で、職員や管理者、ケアマネに相談して貰うよう声掛けをおこなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランを作成する前にご家族様から意見を聴き取り、プランに反映している。自施設では対応が難しいサービスは、外部サービスとして多職種連携を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症になっても出来る事を生かし「誰かの役に立つ」気持ちの支援を意識している。職員が全て行ってしまわず、掃除・洗濯等ご利用者様に協力してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限りの直接面会、外出などを可能とし、ご家族様と一緒に過ごす時間を大切にしながら、ご家族様と共に入居者様をサポートしていけるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔に通っていたお店や馴染みの場所に、一緒に散歩に出かけるように支援している。旧友の方の面会も受け入れている。	契約時のヒヤリングで、趣味や特技・生活習慣等、詳しく聞き取り、記録に残して、職員間で情報を共有しています。コロナ禍で何かと制限がある毎日でしたが、馴染みの商店街や公園に散歩に行きました。久しぶりに行った馴染みの果物屋では、元気な姿を見て喜びあう感動の場面もありました。食事作りでも、昔取った杵柄を發揮し、下ごしらえや味見等、生き活きた表情で利用者が取り組む姿は日常の光景です。それぞれの利用者の「得意」を今もプライドをもってやれるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良いご利用者様同士が交流できるような座席配置を行い、関係構築の努力をしている。職員が間に入ることで、利用者様同士が関わり合える環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了をしても、施設との関係を継続し、介護支援や相談をしやすい関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の希望を聞き、気持ちにそえるよう努めている。ご自身で決定ができないご利用者様には、ご家族様からの聞き取りも行い、意思に沿う事が出来るようにしている。	長いコロナ禍の中、部屋で過ごす場面が多くなり、利用者一人ひとりに向き合い、聞き取ったことで、個別ケアの大切さを確認しました。利用者が何を楽しいと思っているか、何を快適と思っているか、生活のこだわりや何気ないルールに今まで以上に気づくことができました。個別ケアを重視し、ホームのケア理念「ゆめ長居公園は、どんなときでも、その人らしく過ごせる、安心できる場所を目指します」を作り、さらなる個別ケアの充実に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人・ご家族様に趣味嗜好を尋ね、施設での暮らしにも反映するようにしている。生活環境の変化による影響もあるため、入居後1か月間は、重点的に様子を観察し職員間での情報共有を密に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録の中に活動内容を記載し、日々の申し送りや毎月のフロア会議などで、様子の変化やADL・IADLの状況を話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者が主となり、計画作成担当者に近況を報告。今後の課題とケアのあり方については、ご家族様や職員、ご利用者様に関わる関係者の意見を聞き、介護計画を作成している。最後に管理者に閲覧し計画書の作成をおこなっている。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。基本は6ヶ月毎に見直し、状態に変化があった場合は随時見直しています。毎月のフロア会議では、利用者一人ひとりのカンファレンスを実施しています。計画作成担当者は、介護計画更新時には、事前に家族や職員に意見を聞いています。プランありきのケアではなく、日々のケアを反映したプラン、また、個別ケアの実践で「名前を見なくても、誰のプランかわかる」介護計画を目指しています。厚生労働省が推進しているLIFE(科学的介護情報システム)を導入し、根拠に基づいた質の高いサービス提供を行っています。また、所長は加算に見合ったケアの質を意識し、高める必要性も感じています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフト「ほのぼの」を活用し、日々のケアやご利用者様のご様子を記録している。職員間の申し送りには別途、連絡ノートを作成し、重要事項を記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内でニーズが満たせない場合は、外部サービスを活用し、柔軟にサービスが提供出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アロママッサージや訪問理美容など、地域の資源を活用し、生活の質を高める支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の委託医を基本に、地域の医院に都度、受診するようにしている。また、ご家族様・ご本人様希望の診療科に定期的に受診している。	月2回の内科の訪問診療と週1回の訪問看護があります。訪問看護の看護師とは昼夜を問わず相談できる関係ができています。家族付き添いで入居前のかかりつけ医の受診も可能で、職員が同行し、状態を説明することもあります。日常的に健康観察を行い夜間の緊急搬送を避けられるよう努めています。受診状況や検査結果などはニーズに合わせた連絡方法(電話やLINEなど)で家族との情報共有を密にしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師による健康チェックを行っている。併設のデイサービスの看護師とも緊急時は連携し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護サマリーを病院側に提供し、入院しても円滑な看護が出来る協力体制を作っている。退院時カンファレンスにも参加し、退院後の生活を安心して送る事が出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の方針の説明を行っている。また、状態が悪化した時点で再度、ご家族様に今後の方向性について相談し、ご家族様の希望に添えるよう努めている。	現在、看取りは行なっていません。終末期を迎えた利用者には、適切な医療連携と、家族との都度の相談により、自然で穏やかに過ごせるよう支援しています。特にコロナ禍では、付き添いが自由にならない病院より家族面会の可能なホームでの暮らしの継続を望む声がありました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急の講習を施設内で実施している。また、急変時や事故発生時は、管理者に連絡する体制を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施。また、BCP策定に伴う大規模災害時の訓練についても、今年度から開始する。	市老連(大阪市老人福祉施設連盟)の研修などを経てBCP(災害・感染)の策定を進めています。また、通例の避難訓練に加え、阿倍野区・東住吉区のブロックで結んだ災害時相互応援協定により、自施設被災の場合の受け入れ施設や職員確保、通信手段などについても体制を構築し、訓練を開始する予定です。消火器の設置場所が床面でわかりにくいことから、壁面上部に消火器のイラストを貼り、目につきやすい工夫をしています。感染対策品を含めた災害備蓄品は利用者・職員3日分を確保し管理しています。全職員が参加する災害用LINEグループがあります。※LINE=インターネットを利用したコミュニケーションアプリ	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時に、マナー研修を実施。第三者が聞いて、気持ちの良い言葉遣い出来るよう徹底している。また、フロア会議でも定期的に言葉遣いについて問いかけ、見直すきっかけ作りをしている。	特に言葉遣いに重点を置き、入職3年までにマナーが自然に身につくよう研修を重ねています。その中で、利用者には必ず「様」をつけて呼ぶという意識づけは尊厳の保持にもつながっています。ホームのマナーにそぐわない状況に気づいた時は、個別に伝えることもありますが、全体研修を実施し、再確認ができるようにしています。また、チェックリストを利用し、各自が振り返ることもできます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの際はご自身のタンスから洋服を選んだり、飲み物を提供する際にメニュー表を用いて選ぶなど、日常生活の中での選択の機会を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間は設けず、眠られている時は日中に影響が出ない程度に、ゆっくり休む事が出来るようにしている。ご利用者様1人1人に合ったペースで過ごしていただくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の買い物等に付き添い、ご利用者様が好みの服を選べるようにしている。また、理美容の前にはヘアスタイルの好みを雑誌を用いて把握し、ご本人様の希望に添えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、手伝って頂けるご利用者様に声をかけ、負担にならないよう配慮をしながら、一緒に行っている。食事レクも開催し、材料から作る事も行っている。	日々の食事はクックチルを利用し、デリソフターやハンドミキサーを使って嚥下状態に合わせて調理しています。ミキサー食の場合もメニューの持ち味が残せるよう色合いにも注意し配膳しています。日曜は職員が工夫したメニューを提供し、利用者も野菜の下ごしらえから手伝う姿が日常的に見られます。おやつは2~3日毎に職員と共に手作りしています。食の楽しみは、食べることに限らず、利用者自身が作ったものを振る舞うことで得る喜びにも見られます。外食の制限されたコロナ禍では、各自好みの弁当を注文し、長居公園を借景にして季節を楽しむこともしました。食事は基本的にリビングのお気に入りの場所ですとりますが、花の好きな利用者には、視界に入る壁や柱に花の写真を配し、食欲を促しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立した、給食会社による食事を提供している。摂取量や水分量を記録に残し、摂取量の把握に努めている。また、訪問看護師と連携を取りながら、必要に応じて個別で栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの支援を実施。義歯の方は夜間、消毒の支援を行っている。訪問歯科による口腔内の洗浄・指導もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方にのみ、おむつ・パットの使用を行っている。不必要な方には使用せず、体調の変化に応じてご家族様と相談し、その都度対応している。	体調や状態により、おむつ、紙パンツやパット使用の利用者もいますが、基本的には布パンツを着用し、様子を観察して個々にトイレ誘導を行なっています。パットを利用する場合も、厚さの調整を丁寧に行い、肌の状態にも気を配っています。また、水分補給にも工夫をし、好みの飲み物、好みのカップやグラス、タイミングも見計らい、不足のないよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のサイクルとコントロールを個別に把握し、訪問看護師と相談して適宜下剤の調整を行っている。自然排便を促す事が出来るように、朝に白湯を提供する、乳製品の多い食品を提供するなどの対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2日の入浴を基本に、ご利用者様の希望に合わせて、週2日以上の場合も対応している。朝、昼、夕方時間帯で幅広く入浴していただいている。	家庭での入浴を思わせる浴室の造りで、壁には爽やかな植物のウォールステッカーを施し、ゆったりとした時間が楽しめるよう工夫しています。介助なしで入浴ができる利用者には、室外から安全を確認することでプライバシーを守っています。毎夕、自分で準備した着替えを抱えて、職員に声をかけ、入浴を楽しむ利用者もおり、回数、時間とも、個人の好みを活かしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付けない方には、リビングで傍につき添ったり、温かい飲み物を提供するなど、自然な眠気が促せる落ち着いた環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や処方箋をケース記録ファイルに保管し、職員が随時確認出来るようにしている。また、服薬セット時・服薬時にはダブルチェックを行い、処方ミスや服薬ミスが無いよう、徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵を描く事が趣味のご利用者様に個展を開き、他ご利用者様にも見ていただく活動を通して、ご利用者様同士お互いにとって良い刺激となった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて外出時間、場所を検討しながら、外出機会を増やせるよう努力している。また、ご利用者様の馴染みのある場所への外出も心掛け、実施している。ご家族様の協力もあり、外出の機会を定期的に持つ事が出来ている。	ホームの道路を挟んだ向かいには長居公園が広がり、季節の花の見頃を逃さず、散歩に出かけることができます。利用者の要望に応えマンツーマンで出かけることも多く、車椅子に荷物を乗せて歩き、疲れたら休む、の個々のペースを大事にしています。行事の買い物で職員に同伴する際には、久々の化粧を楽しみ、華やいた気分になりました。また家族との外出では、節度をわきまえた上での自由を楽しむこともできます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望に応じて、お金の管理をご本人様にして頂いているが、基本は施設立替にて好きな物を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って頂いたり、ご希望時にフロアの電話やタブレットによるライン面会を行っている。遠方のご家族様へ手紙を出されるご利用者様のサポートも定期的実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	長居公園が見渡せるよう、ガラスの部分を広くとっている。居心地良く過ごして貰うよう、リビングのテーブルやソファを配置変更したり、照明の明暗、BGMに配慮している。	2階、3階のリビングは共に2面がガラス張りで、それぞれの高さから長居公園が見渡せます。カーテンの色や、ソファ・ティーテーブルなどの家具とその配置、階段ドアに貼られたウォールステッカーに各ユニットの趣の違いが感じられ、落ち着いた統一感があります。柱の高い位置に配された備長炭や、壁に掛けられたソープフラワーは、インテリアの一部として、空気の清浄感を高めています。3階フロアのアップライトピアノの横には季節の歌の歌詞が貼られ、職員の伴奏で歌唱を楽しむ時間もあります。理事長の定期的な巡回の際の、違った目線からのチェックやアドバイスも、居心地のよい環境づくりに活かされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団で過ごす事が難しいご利用者様も、リビングで過ごすことが出来る空間を作っている。気の合った利用者様同士でお話しが出来るよう、座席や家具の配置を常に検討・変更しながら対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、キーパーソンの方に、慣れ親しんだ家具や所有物があれば、持ってきて頂くように声掛けをしている。馴染みの物はご本人様の安心感にも繋がっている。	柔らかな採光と、適時適確な室温に調整した居室は、ブラウンが基調のベッドと明るい色調のカーテン、エアコン、クローゼットをホームで設置、利用者は入居時に家族と相談の上、筆筒や机などの慣れ親しんだ家具を持ち込み、好みの布団で休んでいます。ベッドで過ごす時間が長い利用者に合わせ、天井灯の明るさも十分に配慮しています。テレビやラジオで個人の時間を楽しんだり、ミニ冷蔵庫に好みの食材を保管したり、カレンダーを壁や机に配し、予定を書き込む利用者もいます。どの部屋も整頓され、清潔感があり、住みよい温かな雰囲気を作り出しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などを、分かりやすく名称を掲示している。また、車椅子を自走する方でも、不便なく移動が出来るよう、共有スペースを広くとっている。		